



地区社協・福祉委員会 活動の手引き

社会福祉法人

刈谷市社会福祉協議会

生活支援課

刈谷市役所

福祉総務課

(令和7年7月発行)

目次

- 1 地域福祉とは？ P.1
- 2 地区社会福祉協議会(地区社協)とは？ P.2
- 3 「市社協」と「地区社協」の違いは？ P.3
- 4 刈谷市の地区社協 P.4
- 5 市や市社協の支援内容は？ P.6
- 6 地区社協・福祉委員会の活動の流れ P.7
- 7 福祉委員会活動事例集 P.8

1 地域福祉とは？

地域福祉とは、すべての住民が住み慣れた地域で安心して暮らすことを目標に、地域住民・行政・社会福祉協議会・福祉サービス事業所等が協力して取り組む福祉のことです。

年齢、性別、国籍、障害の有無に関わらず、すべての住民が地域福祉活動の対象です。



なぜ地域福祉が重要と言われているの？

少子高齢化や働き方の変化、核家族化等によって、以前はあったご近所さん同士のつながりが希薄化しています。地域のつながりがないと、日頃の支え合いができないのはもちろん、災害時に助け合うことも難しくなってしまいます。

そこで、人と人とのつながりを再構築し、助け合い・支え合いができる地域をつくるために、地域福祉が注目されています。



「福祉」の対象は助けが必要な人だけではないの？

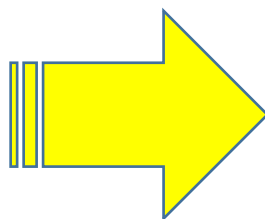
「福祉」という言葉は、以前は「高齢福祉」「障害福祉」のように対象を限定して使われることが多く、「福祉」は助けが必要な人だけのものだと思われていました。

しかし、もともと「福祉」とは、社会の構成員に等しくもたらされるべき幸福のことだと定義されています。つまり、助けが必要な人のような特定のだれかだけでなく、みんなが幸せになるための取り組みのことを指します。

『ふ』だんの

『く』らしを

『し』あわせに



特定のだれかだけでなく、**みんなが幸せ**になるための取り組み

2 地区社会福祉協議会(地区社協)とは？

1 地区社会福祉協議会(地区社協)とは？

住民同士が、自分たちが住んでいる地域の生活・福祉課題や困りごとについて情報共有しながら、互いに助け合い、支え合う活動をすることで、「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を目指す、住民主体の活動団体です。

2 なぜ地区社協が必要なのか？

地域の課題を解決しようとしても、公的なサービスだけではすべてを解決することはできない時代であるとともに、個人ではできることも限られてきます。

そのため、住民同士が自分たちの住む地域の生活・福祉課題や困りごとについて話し合い、解決に向けて取り組んでいく必要があります。しかし、その場が組織化されていなければ、継続して協議することができなくなることが想定されます。

そのため、地域の生活・福祉課題や困りごとの解決に向けて継続して協議する場として、地区社協が必要であると考えています。

3 地区社協は何をするのか？

住民同士が自分たちの住む地域の生活・福祉課題や困りごとについて一緒に考え、解決に向けて取り組んでいくことを目的として活動しています。

地域の状況に合わせ、以下のような活動が全国で展開されています。

ふれ合う	学ぶ	支える	見守る	知らせる	募る
<ul style="list-style-type: none">・ふれあいサロン・コミュニティーカフェ・交流会	<ul style="list-style-type: none">・福祉講演会・福祉講座・ボランティア養成講座	<ul style="list-style-type: none">・地域組織の支援(ボランティアグループなど)・避難行動要支援者への支援	<ul style="list-style-type: none">・見守り活動・声かけ運動	<ul style="list-style-type: none">・便り・通信の発行	<ul style="list-style-type: none">・バザーの開催

誰もが安心して暮らせるまちに、地区社協は欠かせません！

3 「市社協」と「地区社協」の違いは？

市社協は、住民や関係機関等と一緒に誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指し、地域福祉の推進を使命とする民間団体です。しかし、市社協だけではできることに限界があります。そのため、住民の「声を聴き」、住民と「共に考え」「共に支え」「共に動く」を基本として事業を展開しており、その1つとして地区社協への支援を行っています。

市社協は、地区社協を地域福祉推進の基礎組織として捉え、車の両輪となって協働し、地域の生活・福祉課題を把握し、一緒に考え、解決に向けて取り組んでいきます。

	市社協	地区社協
性格	『社会福祉法に位置づけられた民間団体』 市区町村の社協は民間団体ですが、社会福祉法という法律のなかで、地域福祉の推進を図ることを目的とする団体として位置づけられています。	『福祉推進の自主組織』 法的な位置づけはなく、住民の自主組織です。 愛知県でも約半数の市町村で地区社協が設立されています。
対象地域	『市全域』 市全域を視野に入れ、幅広い地域を対象にしています。	『地区ごと』 刈谷市では2中学校区ごとに設立されています。
取り組み	『福祉コミュニティ社会づくり』 全市的な福祉課題・ニーズへの取り組みや、ボランティア活動や地区社協支援等の地域福祉活動の他、介護事業等に取り組んでいます。	『住民相互活動の取り組み』 各地区の生活・福祉課題に対して、住民の助け合いによる解決に向けて取り組んでいます。刈谷市の場合は福祉委員会が活動主体となり、地区社協は各福祉委員会の情報共有をする場となっています。
組織構成	『地域で暮らす住民の皆様、社会福祉関係の事業者・活動者』 地域で暮らす住民の皆様、社会福祉や保健、医療、教育等の関連分野の関係者、さらに、地域社会の様々な機関・団体です。	『地域に密着した団体・個人』 刈谷市の場合は福祉委員会が地区社協の構成団体となっており、福祉委員会の構成員は地域に密着した団体・個人となっています。

4 刈谷市の地区社協

刈谷市では市を北部・中部・南部の3エリアに分け、それぞれで地区社協が設立されています。

	北部地区社協	中部地区社協	南部地区社協
設立年度	令和6年度	令和元年度	平成28年度
活動範囲	富士松・ 雁が音中学校区	刈谷南・ 刈谷東中学校区	依佐美・ 朝日中学校区
構成組織	福祉委員会	福祉委員会	福祉委員会

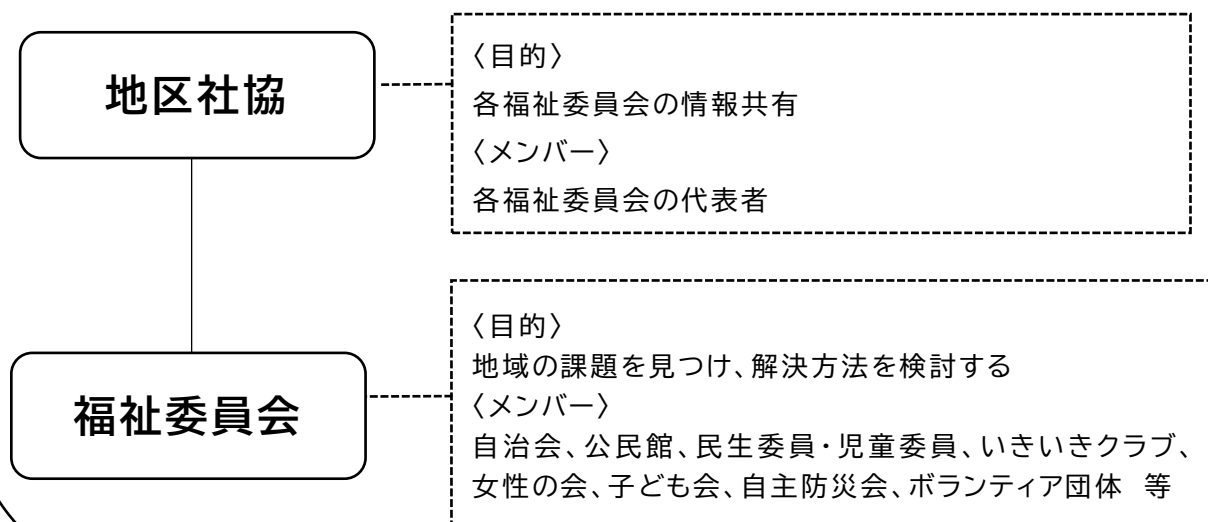


福祉委員会とは？

地区社協を構成する組織として「福祉委員会」が設立されています。地区社協では活動範囲が広すぎて、きめ細やかな活動がしづらいと考えたためです。

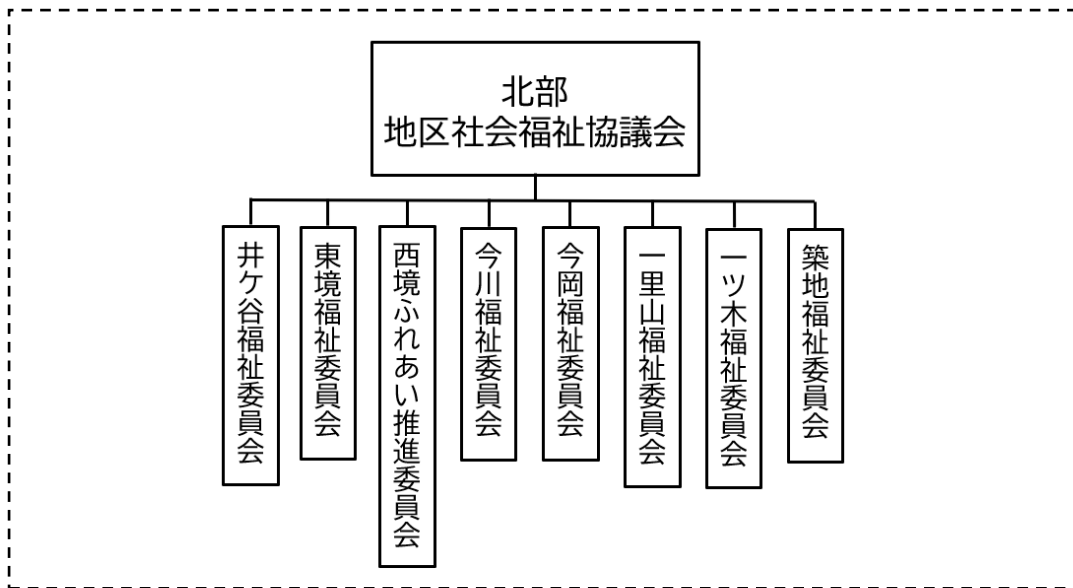
福祉委員会は、自治会を単位として設立されています。自治会、公民館、民生委員・児童委員等の地域で活動している人が集まり、その地域の課題について話し合い、課題解決に向けて取り組んでいます。

地区社協は、各福祉委員会の情報共有をする場として機能しています。

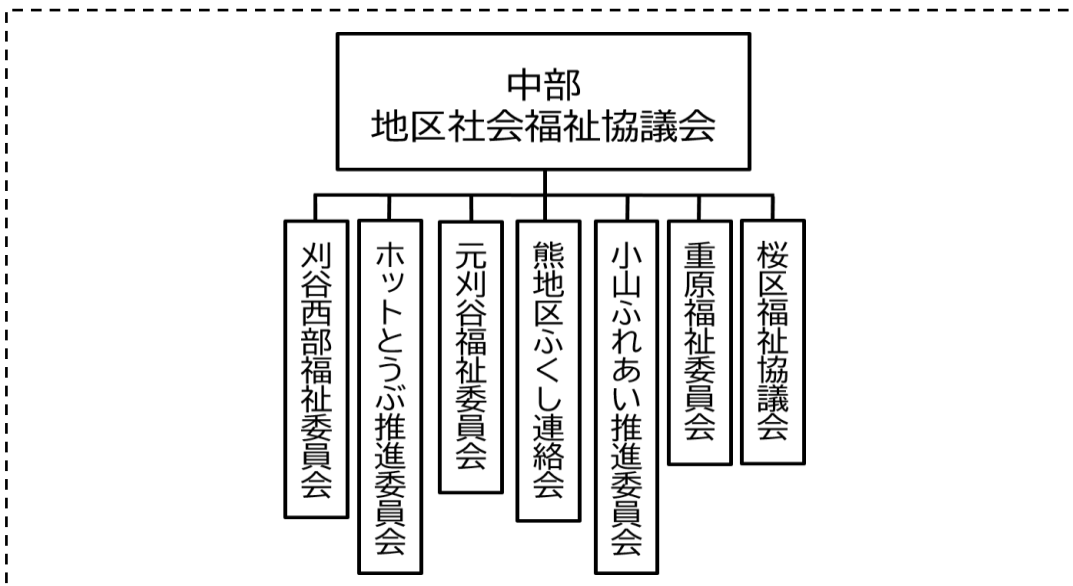


[地区社協組織図]

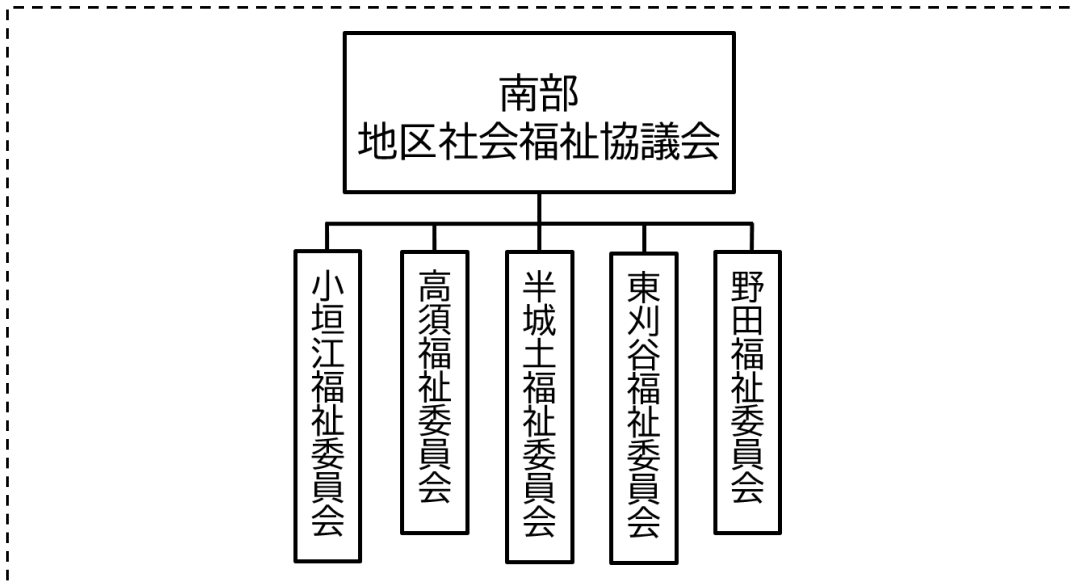
北部



中部



南部



5 市や市社協の支援内容は？

市や市社協は、地区社協・福祉委員会に対して設立支援や活動支援を行い、活動が円滑に進むようにサポートします。



市や市社協は、具体的にどんな支援をしてくれるの？

市や市社協は、地区社協・福祉委員会のサポート役として、以下の支援を行います。

- 活動費の助成(年8万円)
- 活動アイデアの提案、助言
- 会議の日程調整、資料作成、進行補助、記録作成 等

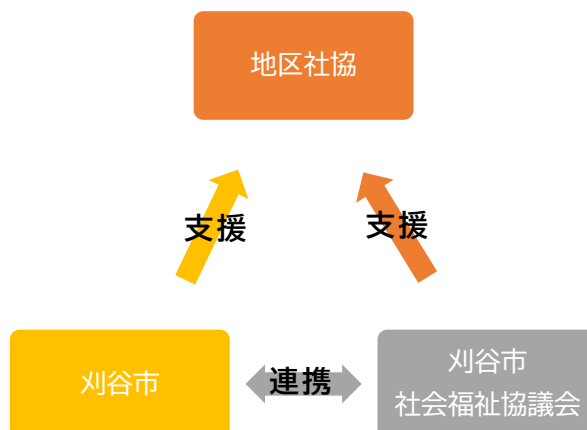
地区社協・福祉委員会の活動が円滑に進み、皆さんに過度な負担がかからないように、市や市社協が担える事務作業等をお手伝いします。



市・市社協・地区社協は地域づくりをともに行うパートナー！

地域課題の中には、地区社協・福祉委員会では解決できないものもたくさんあります。逆に、住民組織である地区社協・福祉委員会だからこそ解決できるものもたくさんあります。

制度のもとに動く市、専門職が集まる市社協、地域のことを一番知っている地区社協・福祉委員会は、地域づくりをともに行うパートナーとして、協力して地域課題の解決に取り組みます。



6 地区社協・福祉委員会の活動の流れ

1 地域の中に横のつながりをつくる

地域の課題を解決する第一歩は「地域の中に横のつながりをつくる」ことです。

地域によっては団体同士のつながりが薄く、それぞれがどのような活動をしているか把握していないこともあるかもしれません。

まずは顔を合わせて横のつながりをつくり、お互いの活動を知ります。活動を知ることによって新たな発見があったり、自分の団体の活動に生かすことができたりします。

2 地域の課題を出し合う

横のつながりをつくりながら、地域の課題について話し合います。「地域の課題」というと漠然としていてわかりづらいので、各団体が抱える課題を出し合うのもいいかもしれません。課題を話し合うことで、「1個人・1団体が抱える課題」が「地域全体が抱える課題」に変わります。

3 課題を整理する

次は、課題を整理します。

出てきた課題すべてをいきなり解決することはできません。また、地区社協・福祉委員会では解決できない課題も含まれているかもしれません。

そこで、「この課題は地区社協・福祉委員会で解決できるのか」「早く解決すべき課題は何か」等を整理することで、今取り組むべき課題が見えてきます。

4 課題の解決方法を検討し、活動を始める

地区社協・福祉委員会として取り組む課題が決定したら、その解決方法を検討します。

地区社協・福祉委員会はすべてにおいて実施主体である必要はありません。活動に応じてボランティアを募集したり、関係団体と協力したりして取り組みます。

また、課題の解決アイデアが思いつかない場合は、他の地区社協・福祉委員会の活動を参考にするのも1つの手です。

次ページから刈谷市の福祉委員会の活動事例が載っていますので、ぜひ参考にしてください。

7 福祉委員会活動事例集

刈谷市の福祉委員会の活動事例をご紹介します。参考に、ぜひご覧ください！

※活動事例集の見方※

活動タイトル		
福祉委員会名		
活動に至った背景	活動の概要	
なぜその活動をする ことになったのか、 出てきた課題	活動の中身	
活動のポイント		
活動するにあたって気を付けたこと、 いちおしポイント		

活動タイトル	サツマイモづくりを通した多世代交流事業	
福祉委員会名	井ヶ谷福祉委員会	
活動に至った背景	活動の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・もともとは多世代交流のモデル事業として市から期間限定の補助金をもらって始まった事業だったが、補助金の交付終了が近づいてきた。 ・多世代交流の場となる事業で参加者にも好評だったため、福祉委員会として継続を支援することとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区内の畑を借り、サツマイモの植え付けや収穫を子どもから高齢者までの幅広い世代で一緒に行く。 	
活動のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・サツマイモづくりを通して多世代交流ができるとともに、子どもたちに自然と触れ合う機会を提供できた。 ・住民のほかに愛知教育大学の学生も参加しており、さまざまな人が担い手となれた。 		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>		

活動タイトル	防災すごろくであそぼう
福祉委員会名	東境福祉委員会
活動に至った背景	活動の概要
<ul style="list-style-type: none"> ・地区として「子ども食堂」を開催したかったが、衛生面や経費の問題からなかなか実現に至らなかった。 ・刈谷市赤十字奉仕団が地域のために活動したいという思いを持っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災を題材にしたすごろくゲームや防災食作り等を行うイベントを開催した。 ・子どもから高齢者までの幅広い世代に参加を促すことで、多世代交流を図った。

活動のポイント

- ・刈谷市赤十字奉仕団と連携しながら開催した。
- ・イベントを通して、参加者に楽しみながら防災への意識や関心を持ってもらった。



活動タイトル	サツマイモ収穫 & 豚汁でほっこり多世代交流	
福祉委員会名	西境ふれあい推進委員会	
活動に至った背景	活動の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきクラブの会長が「子ども会と協力して多世代が楽しめる活動がしたい」という思いを持っていた。 ・いきいきクラブ単独で開催しようとする予算等のハードルがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきクラブと子ども会合同で、サツマイモの収穫を行っている。 ・いきいきクラブの会員が豚汁の炊き出しを行い、収穫後に参加者全員で豚汁を食べて交流する。 	
活動のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・活動前までは、いきいきクラブと子ども会は地区行事で顔を合わせる程度の関わりだったが、一緒に活動することで横のつながりが生まれた。 ・畑をやっているスタッフが子どもの収穫を手伝い、料理の得意なスタッフが豚汁を作り、それぞれの得意なことを生かして役割分担を行った。 		
		

活動タイトル	自治会イベントでのおしるこの配布
福祉委員会名	今川福祉委員会
活動に至った背景	活動の概要
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉委員会を設立したばかりで区内での認知度が低く、地域住民へ広報する機会を設けたかった。 ・自治会イベントである「さくらまつり」をさらに盛り上げたいという思いがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「さくらまつり」にて福祉委員会ブースを設け、立ち寄ってくれた人におしるこの配布を行った。

活動のポイント

- ・参加者が多い自治会イベントに福祉委員会ブースを出展することで、多くの人に福祉委員会の広報をすることができた。
- ・高齢者サロンを運営しているスタッフにブースを手伝ってもらい、参加者との交流をより深めることができた。



活動タイトル	防災に関する勉強会	
福祉委員会名	今岡福祉委員会	
活動に至った背景	活動の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・地区内の防災意識が低いという課題があり、向上のための取り組みを検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「刈谷市の災害時における避難行動について」というテーマの勉強会を開催した。 ・防災についての基礎知識を学ぶことで、災害時の避難方法の検討につなげた。 	
活動のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・市の出前講座を利用することで、経験豊富な講師へ気軽に依頼することができた。 ・参加者へのアンケートにて、「福祉委員会として取り組んでほしい活動」を尋ねることで、住民からのニーズ収集に努めた。 		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

活動タイトル	子どもカフェ	
福祉委員会名	一里山福祉委員会	
活動に至った背景	活動の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・もともと更生保護女性会が子ども食堂を開催しようとしていたが、1団体だけでは運営が難しく、福祉委員会として開催することになった。 ・子ども食堂は開催のハードルが高かったため、負担なく開催するためにカフェ形式で行うこととした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区内の子どもを対象として、夏休み等の長期休みに開催している。 ・内容は、お菓子を食べながらのおしゃべり、ポッチャ、ビンゴ、ダイナミックじゃんけん等さまざま。 ・市販のお菓子やジュースを提供する。 	
活動のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・区内の子どもを対象とした行事を福祉委員会が開催することで、親の負担なく子どもが楽しめる機会を提供した。 ・負担なく継続的に開催できる運営方法を模索した。 		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>		

活動タイトル	先進地区から学ぶ研修会
福祉委員会名	一ツ木福祉委員会

活動に至った背景	活動の概要
<ul style="list-style-type: none"> ・防災に力を入れたいが、地区内でもエリアによって防災意識に差があることから、全体的な意識向上を図りたかった。 ・防災活動について検討するにあたって、先進地区の事例を知りたかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内他地区で防災活動をしている2つの福祉委員会の会長へ講師を依頼し、「地震と避難所」「避難行動要支援者への対応」についての講演をしてもらった。

活動のポイント

- ・市内の活動者から話をしてもらうことで、参加者が我がごととして捉えることができた。
- ・先進地区の活動について具体的に話を聞くことで、今後の活動の検討につなげることができた。



活動タイトル	防災マップの作成	
福祉委員会名	刈谷西部福祉委員会	
活動に至った背景	活動の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・地区と民生委員・児童委員に避難行動要支援者名簿が配付されているが、地区内の要支援者の情報が一目で把握できるようなものがなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組長と民生委員が主体となり、地区の住宅地図に、避難行動要支援者名簿に記載のある世帯等の情報を落とし込む。 ・完成したマップはそれぞれが保管し、要支援者の居場所を把握できるようにする。 	
活動のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・防災マップを作成することで、要支援者に対する地区内の意識が高まった。 ・組長と民生委員と一緒に作成することで、両者の顔合わせの機会となった。 		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>		

活動タイトル	交流サロンホットとうぶ
福祉委員会名	ホットとうぶ推進委員会
活動に至った背景	活動の概要
<ul style="list-style-type: none"> ・刈谷東部地区には子育てサロンがなく、子育て中の親子が集まる場がなかった。 ・子育て世代が市民館を利用することが少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民館にて、子育て中の親子を対象とした子育てサロンを月1回開催している。 ・内容は紙芝居の読み聞かせ、おもちゃ遊び、工作等。紙芝居の読み聞かせはいきいきクラブの会員が担当している。 ・社協の作業療法士が参加することで、発達等の相談に対応できるようにしている。 ・年に1回は休日に開催し、平日の参加が難しい親子も参加できるようにしている。

活動のポイント

- ・子育て中の人が集まる場ができた。
- ・いきいきクラブの会員にも参加してもらうことで、多世代交流の場にもなった。



活動タイトル	要支援者の見守り活動	
福祉委員会名	元刈谷福祉委員会	
活動に至った背景	活動の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員・児童委員のみで要支援者の見守りを行うことは難しく、見守りの目を増やしたいという思いがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組長や班長が要支援者の自宅を訪問して顔合わせを行うことで、日常적인見守りができる環境を整えている。 	
活動のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・組長や班長は毎年交代するため、要支援者への見守りの目が増えた。 ・要支援者全員を対象にするのではなく、特に支援が必要な人を決めて訪問することで、組長や班長の負担を軽減した。 		
		

活動タイトル	目くばり・気くばり・声かけ運動
福祉委員会名	熊地区ふくし連絡会

活動に至った背景	活動の概要
<p>・助け合いや支え合いができる地域にするためには、住民同士の日頃からのつながりを深める活動が必要と考えた。</p>	<p>・回覧板等を通して、以下のことを地域住民に呼びかけている。</p> <p>①登下校時に家の前を出て、地域全体で子どもを見守る。</p> <p>②回覧板等をできるだけ手渡しし、顔を合わせる機会を増やす。</p>

活動のポイント

・誰でも気軽に取り組めるので、地域住民全員が活動の主体となれた。

令和7年3月15日
熊地区ふくし連絡会

**みんなでやろう！
目くばり・気くばり・声かけ運動**

ご近所さんどうしのつながりが
なくなっている気がするなあ

地域で子どもたちを見守りたい！

つながりのある熊地区にする第一歩として、
みんなでやってみよう“目くばり・気くばり・声かけ”を！

**登下校中の子どもたちに「いってらっしゃい」「おかえりなさい」と
声をかけましょう！**

◎子どもたちと大人のつながりが強くなり、安心して登下校ができます
◎あいさつには犯罪を未然に防ぐ効果があり、安全で安心なまちになります

**ご近所さんに配る広報紙(市民だより、回覧板など)を
できるだけ手渡ししてみましょう！**

◎顔を合わせる機会が増え、つながりが強くなります **やってみよう！**

**一人ひとりのちょっとした心がけで
熊地区をより仲のよい明るいまちにしましょう！！**

熊地区ふくし連絡会
詳細は裏面をご覧ください。

熊地区の各団体の活動や課題を共有し、支え合いのできる地域をつくることを目的として、熊地区ふくし連絡会を設けて活動の検討をしました。地域のつながりを強める活動をすることで、お互いに支え合いができる地域を目指します。ご協力をお願いします。 令和2年2月設立

～熊地区に笑顔と活力を！～

熊地区ふくし連絡会とは？

熊地区ふくし連絡会は、熊地区の皆さんのための組織です。
熊地区で活動している色々な団体が、どのような活動をしているか、地区のイベントにもっとたくさんの人が参加してもらうために必要なことは何か？話し合っています。地域に住む皆さんのつながりを強め、お互いに支え合える地域を目指しています。

熊地区ふくし連絡会の取り組み

- ・年4回の会議にて熊地区で活動している団体の活動報告、課題の共有をする。
- ・熊地区の夏祭りなど行事の協力。
- ・「目くばり・気くばり・声かけ運動」の参加呼びかけ。

これからも話し合いを重ね、熊地区のための活動を考えていきます！

熊公民館 熊老社会 熊地区安全パトロール隊

消防団第4分団 熊子ども会 自主防災会 熊・竹燈りの会

地区委員会 熊結いの会 刈谷市スポーツ推進委員 福祉行政経験者

民生委員・児童委員 ボーイスカウト 刈谷市保健推進委員

活動タイトル	歩け歩け大会でのふれあいブース
福祉委員会名	小山ふれあい推進委員会

活動に至った背景	活動の概要
<ul style="list-style-type: none"> ・もともと多世代交流を目的としたサロンを開催していたが、コロナのため中止になってしまった。 ・サロンに代わる活動として、地区行事である「歩け歩け大会」にて多世代交流の要素を盛り込めないか検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「歩け歩け大会」にて、多世代交流を目的とした「ふれあいブース」を実施。 ・内容は、わなげ、ジェスチャーゲーム、あっちむいてほい等さまざま。

活動のポイント

- ・コロナ禍で既存の屋内サロンが開催できなくなり、屋外の地区行事に着目した。
- ・子どもから高齢者まで幅広い世代の新しい交流の場となった。
- ・既存の地区行事のより一層の充実につながった。



活動タイトル	認知症に関する講演会
福祉委員会名	重原福祉委員会

活動に至った背景	活動の概要
<ul style="list-style-type: none"> ・地区内に認知症の人がいるため、接し方や地域でできることを学びたいという思いがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の専門医に講師を依頼し、地域住民を対象とした「認知症に関する講演会」を開催した。

活動のポイント

- ・地域で認知症について学ぶことで、認知症に対する意識を高めることができた。
- ・参加者一人ひとりが認知症のことや地域でできることを考えるきっかけとなった。



活動タイトル	いきいき100歳体操
福祉委員会名	桜区福祉協議会

活動に至った背景	活動の概要
<ul style="list-style-type: none"> ・「いきいき100歳体操」という体操のDVDと手足につけるおもりを地区で購入したが、活用の機会がほとんどなかった。 ・気軽に体を動かせる場がなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・桜市民館にて月1回、「いきいき100歳体操」を開催している。 ・社協の理学療法士が参加しており、健康相談ができる場にもなっている。


活動のポイント

・体操後に茶話会や脳トレの時間を設けることで、地域のつながりづくりの場にもなった。



活動タイトル	ラジオ体操を活用した集いの場づくり	
福祉委員会名	小垣江福祉委員会	
活動に至った背景	活動の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・小垣江地区は、市民館、市民センター、集会所等の集まる場所が多く、サロン活動もさかんだが、地区が広いため徒歩で会場へ行けない人も多かった。 ・当時、「小垣江ラジオ体操の会」というボランティア団体が地区で活動していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区にある公園やお寺等でのラジオ体操の開催を支援し、集いの場を増やした。 ・現在は地区内の5か所で定期的にラジオ体操が行われている。 ・夏休みには子どもを招待し、多世代交流の場として活用している。 	
活動のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・新たな集いの場を検討するにあたり、ラジオ体操がラジカセ 1 つでどこでも簡単にできることに着目した。 ・活動をはじめるにあたり、すでにラジオ体操を実施している場所や団体を調査した。 ・ラジオ体操の推進活動を行っていた「小垣江ラジオ体操の会」に協力を依頼し、指導のもとで活動を開始した。 		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>		

活動タイトル	ほっとカフェ(認知症カフェ)	
福祉委員会名	高須福祉委員会	
活動に至った背景	活動の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・当時、地区内に認知症カフェがなく、認知症当事者や家族介護者が集まる場所がなかった。 ・地区内のフローラルガーデンよさみ内にカフェがあり、地区長が管理者とつながりがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月第3・4木曜日にフローラルガーデンよさみ内のカフェにて「ほっとカフェ(認知症カフェ)」を開催している。 ・ボランティア、包括職員、認知症当事者、地域住民等のさまざまな人が集まっている。 	
活動のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェは事業所等で行うことが多いが、「ほっとカフェ」は一般の人も利用するカフェで開催しているため、認知症の人とそうでない人を区別することなく、誰もが楽しめる場となっている。 		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>		

活動タイトル	見回り活動	
福祉委員会名	半城土福祉委員会	
活動に至った背景	活動の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・ご近所さん同士のつながりが減り、お隣さんの顔を知らないことがあった。 ・高齢者のみの世帯や単身高齢者世帯等、見守りが必要と思われる人が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回、班長が希望者の自宅を訪問して安否確認や見守りを行う。 ・新聞が溜まっている等の異常があれば関係機関に連絡して対応する。 	
活動のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・活動を開始した当初、班長が各世帯へ定期的に市民だよりを配布することに着目し、本活動によって地域の見守り体制を整備した。令和7年度からは市民だよりが業者配布となったが、担い手である地区委員の協力が得られたため、月に1回の頻度で活動を継続することとなった。 ・要支援者全員を対象にするのではなく、希望制にすることで班長の負担を減らした。 		
		

活動タイトル	ワイワイフェスタへの単身高齢者招待	
福祉委員会名	東刈谷福祉委員会	
活動に至った背景	活動の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に支援が必要な住民の避難方法について地区として検討したいが、「どの人がどのような課題を抱えているのかわからない」という課題があった。 ・地区行事への高齢者の参加が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会が毎年開催している「ワイワイフェスタ」に、単身高齢者を招待している。 ・民生委員・児童委員の協力のもと事前に対象者へ招待はがきを送り、参加の可否を尋ねている。 ・不参加の人には参加できない理由についてアンケートをとり、対象者の課題把握に努めている。 	
活動のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・1つの活動で、①地区行事への高齢者の参加促進、②対象者の課題把握という2つの役割を果たした。 ・自治会、民生委員・児童委員、自主防災会等、さまざまな立場の住民が協力し合える福祉委員会だからこそできる活動。 		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

活動タイトル	おげんきサロン	
福祉委員会名	野田福祉委員会	
活動に至った背景	活動の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・野田地区は広いが、当時サロンが1か所しかなかった。 ・既存のサロンは常連の参加者が多く、新たな参加者の受け入れが難しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のサロンとは別の会場で、高齢者を対象としたサロンを開催している。内容は、講師を呼んだ「ミニ講座」、体操、おしゃべり等。 ・夏休み期間中には対象を全世代に広げ、多世代交流サロンとしている。内容は、将棋、折り紙、紙相撲等さまざま。 	
活動のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・既存のサロンと別の会場で開催したことで、今まで参加できなかった人が参加できるようになった。 ・参加者として来た人が将棋やマージャンを教える等、全員が主体となれるサロンづくりができた。 		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>		